

平成16年度（2004年度）

日田市埋蔵文化財年報



発刊にあたって

平成17年3月22日をもちまして、日田市は旧日田郡の天瀬町、大山町、上津江村、中津江村、前津江村の2町3村と合併し、新市としての船出を迎えました。これまで行われてきた埋蔵文化財の保護活動はその範囲を広げ、文化課は文化財保護課として新たな体制へと機構改革され、新たな局面を迎えてゆくこととなります。

本書は旧体制のもとで実施された埋蔵文化財の保護活動を記録した最後の報告となりますが、これまでの成果は新たな組織と新市へと引き継がれ、今後も埋蔵文化財の発掘調査事業を進めるとともに、これと一体化した普及・啓発活動の一層の充実を図っていき、事業者及び市民の方々に対して埋蔵文化財への理解をより一層深めていただくよう努力してゆきたいと考えております。

最後になりましたが、この1年間日田市の埋蔵文化財調査および普及・啓発に多大なるご指導・ご協力を賜りました関係者の皆様方に、心よりお礼を申し上げます。

平成17年6月

日田市埋蔵文化財センター施設長

日田市教育庁文化財保護課長 後藤 清

例言

1. 本書は、平成16年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業の概要をまとめたものである。
2. 本書には、大分県教育委員会が日田市内で行った埋蔵文化財保護事業の一部も併せて掲載している。掲載にあたっては田中裕介氏（県文化課）の協力を得た。
3. 発掘調査における遺物・図面・写真類等の資料については、日田市埋蔵文化財センターにて保管・展示している。
4. 表3・4における「詳細地図番号」は日田市作成「1/2,500都市計画基本図」および大分県作成「1/5,000大分県森林基本図」、「住宅地図」をもとに作成し、センターにて保管している。
5. 受領図書は平成16年4月1日～平成17年3月31日の間に日田市教育委員会と日田市立博物館あてに寄贈いただいた埋蔵文化財関係書物を掲載した。
6. 受領図書一覧表の作成では、伊藤一美氏の協力を得た。
7. 表紙写真は、薬師堂山古墳出土の埴輪である。（本文5頁参照）。
8. 平成16年度の埋蔵文化財調査担当は、土居和幸・行時桂子・若杉竜太・渡邊隆行、普及啓発事業担当は中村邦宏である。なお、薬師堂山古墳の調査は別府大学にその一部を委託した。
9. 本書の執筆は1-2)、IIを各担当者が行ったほかは、渡邊が行った。文責を末尾に記している。なお、薬師堂山古墳に関しては、別府大学教授下村智氏、講師玉川剛司氏、大学院生越知琢也・末國隆和氏による。
10. 編集は各担当者間で協議し、渡邊が行った。

目次

発刊にあたって

I 平成16年度の埋蔵文化財調査事業	1
1) 平成16年度埋蔵文化財調査の概要	1
2) 発掘調査・確認調査の概要	4
3) 試験調査・立会調査・照会の概要	12
II 平成16年度の埋蔵文化財普及・啓発事業	13
1) 埋蔵文化財センター運営事業	13
2) 埋蔵文化財の普及・啓発活動	14
3) 指定文化財	15
4) その他	15
III 受領図書一覧	16

I 平成16年度の埋蔵文化財調査事業

1) 平成16年度埋蔵文化財調査の概要

平成16年度の発掘調査等の動向(表1)

平成16年度は公共事業・民間開発に伴う埋蔵文化財包蔵地の事前照会件数は58件、このうち試掘・立会調査を行ったものは30件、発掘調査を行ったものは10件であった。

発掘調査は民間開発に伴うものが2件で、その原因はマンション建設が1件、分譲住宅造成に伴うものが1件であった。県公共事業に伴う発掘調査は農業基盤整備事業に伴う町ノ坪遺跡B区、金田遺跡、小西遺跡の3件で、市の公共事業に伴う発掘調査は市道建設に伴う求来里平島遺跡D区、公民館建設に伴う入籠遺跡、水道施設建設に伴う中尾原遺跡の3件であった。そのほか、史跡整備に伴う事前確認を目的としたガランドヤ古墳、史跡の内容確認を目的とした薬師堂山古墳の2件の確認調査を実施した。また大分県教育委員会が市内で1件の発掘調査を行っている。

前年度と比較した全体的な傾向としては、事前照会審査件数が若干増加し、それに伴い試掘・立会調査件数も増加しているものの、発掘調査件数は前年度から横這いである。公共事業に伴う開発件数は増減を繰り返しながらほぼ水平傾向を示しており、民間の開発件数は、平成10年度前後を中心とした増加傾向が若干落ち着きながらもやや回復の兆しが見られる。今後は合併により、開発に伴う照会件数は増加し、更なる拍車がかかるものと予測され、これに対応するための新市での調査体制の整備、職員の資質の向上、作業の効率化など、多くの課題が提起されるものと考えられる。

平成16年度の発掘調査の内容(表2)

本年度は旧石器時代の調査例はなく、縄文時代から中世にいたる遺跡の調査を行っている。

縄文時代の調査としては中尾原遺跡で前期の集落跡が確認されている。

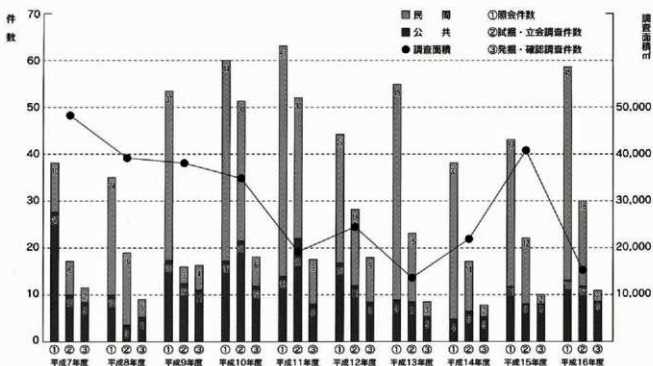
弥生時代の調査では、金田遺跡で中期末～後期末にかけての集落跡が確認され、竪穴住居跡や小児用甕棺墓、石棺墓などが検出されている。また、金田遺跡の対岸に位置する小西遺跡では中期末～後期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が数軒確認されている。いずれも中期の円形住居や後期の方形住居が見られ、住居構造の変遷を追うことの出来る好資料である。求来里地区では近年の圃場整備に伴う調査で弥生～古墳時代の調査例の増加が見られ、特に中期から後期の遺構が多く発見されており、この時期の集落変遷を検討する好資料として注目される。そのほか入籠遺跡では後期の包含層が確認されている。

古墳時代の調査としては、ガランドヤ古墳1号墳で周溝および墓道の確認が行われ、周溝は確認できなかったものの、墓道の残存状況が明らかとなり、追葬や祭祀に使用されたとみられる土器類が多数確認されている。また、市内では数少ない埴輪の出土する古墳である薬師堂山古墳では、周溝は確認できなかったものの、埴輪が確認され、径約38mの大型円墳であることが明らかとなるとともに、形象埴輪が出土している。このほか、求来里地区の町ノ坪遺跡B区、金田遺跡、求来里平島遺跡D区の各遺跡では5～6世紀の集落跡が密集して確認され、日田市内でも資料の少ないカマド導入期の住居構造の変化や集落変遷を知る上での好資料である。なかでも特に、町ノ坪遺跡B区からは朝倉古窯跡と見られる初期須恵器、金田遺跡からは朝鮮半島系と見られる須恵器類が出土するなど、須恵器の導入過程を知る貴重な資料が得られている。昨年度調査の町ノ坪遺跡C区出土の須恵器無蓋高坏も含め、今後の資料の整理報告が期待される。また、入籠遺跡では柱穴などの遺構が確認され、集落の存在が明らかとなった。

古代の調査では町ノ坪遺跡B区で溝跡が確認され、また、大波羅遺跡では弥生～古代と想定される溝、古代～中世と想定される掘立柱建物跡が確認されている。

中世の調査では慈眼山瀬戸口遺跡において、多数の柱穴群、溝跡や石組の井戸、整地層などが確認されている。整地層や遺構からは大量の土師器と共に銭や瓦、漆製品、木器類などの遺物の出土も豊富であった。大蔵古城跡にも近く、当該期中世大蔵氏と関連する施設の可能性が想定されている。また、求来里平島遺跡D区では中世～近世の堆積層が調査され、木器などが発見され、大波羅遺跡では土坑が確認されている。

表1 埋蔵文化財の調査件数および調査担当者の推移



	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
専門職員数	4	4	5	3 (4)	4	3 (4)	4	4	4	4
嘱託職員数	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0
調査面積	48,230	38,343	37,510	33,846	16,794	21,254	10,552	18,663	38,827	13,309

面積単位: m²

表2 平成16年度発掘・確認調査一覧表

日田市教育委員会

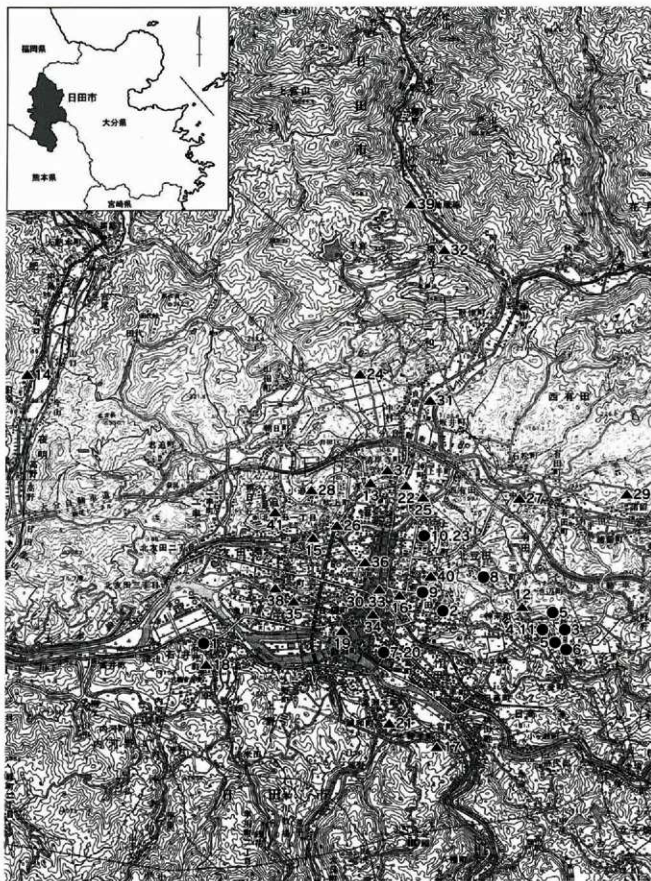
面積単位: m²

番号	遺跡名	所在地	事業主体	調査原因	開発面積	調査面積	調査年月日	費用負担	調査担当者	備考
1	グラウンドヤ古墳	石井1187他	市教委	確認調査	-	101	0913~1126	国庫補助	土居	
2	築跡堂山古墳	田島554	市教委	確認調査	-	30	0307~0325	国庫補助	土居	-跡字版
3	町ノ坪遺跡B区	求米里字町ノ坪1550他	大分県	国場整備	14,000	7,100	0405~0730	原因者	渡邊	
4	金田遺跡	求米里字金田1060他	大分県	国場整備	44,000	1,600	0428~1126	原因者	若杉	
5	小西遺跡・町ノ坪遺跡D区	求米里字小西1406-1他	大分県	国場整備	51,000	2,000	1201~0325	原因者	若杉	町ノ坪D区は次年度継続
6	求米里平島遺跡D区	求米里平島1759-1	日田市	市道建設	1,300	1,100	0405~0614	原因者	行時	前年度継続
7	入籠遺跡	竹田字入籠624-1	日田市	公民館建設	1,641	450	0615~0818	原因者	行時	
8	中尾原遺跡	北豆田字原1838-6	日田市	水道施設	260	260	0818~1014	原因者	行時	
9	大波羅遺跡3次	田島108	民間	7792建設	927	199	0525~0527	原因者	土居	
10	志眼山瀬戸口遺跡	上城内町435-1	民間	宅地分譲	2,726	400	0217~0331	原因者	渡邊	

大分県教育委員会

面積単位: m²

番号	遺跡名	所在地	調査原因	開発面積	調査面積	調査年月日	費用負担	備考
11	金田遺跡	求米里字金田1054他	河川改修	-	650	0614~0813	原因者	



● 発掘調査 ▲ 試掘・立会調査 ○ 県教委調査

平成16年度発掘調査位置図 (1/60,000)

ガランドヤ古墳は盆地西部の河岸段丘上に築造された3基の古墳で、このうち1・2号墳は石室内部に赤や緑の顔料を用いて、彩色が施された装飾古墳として周知され、昭和59・60年の確認調査（1次調査）では新たな壁画の発見や多くの遺物が出土するなど、その後の平成5年には国史跡の指定を受けている。

今回の2次調査は史跡ガランドヤ古墳保存整備事業に伴い、1次調査段階では古墳周辺に住宅が建ち並んでいたため、確認することができなかった1号墳の周溝や墓道などの検出を主目的に実施した。調査では古墳周囲にトレンチ6本を設定し、その確認に努めた。

各トレンチの概要は、次の通りである。

1トレンチは古墳東側に設定したもので、調査では住宅建設時の掘乱が深くまでおよんでおり、周溝の確認までにはいたらず、また遺物の出土もなかった。

2・3トレンチは当初石室正面に別々に設定したが、墓道や前庭部を確認できたので、1つのトレンチとした。調査では1号墳石室に続く墓道の閉塞石や列石の一部と、前庭部の一部を確認したほかにピット数個を検出した。閉塞石は頭大の川原石を積み上げており、閉塞の幅は約1.2mを測る。この確認によって、1号墳の複室構造の石室の長さは約10mであることが判明した。さらに、前庭部はその一部しか確認し得ていないが、幅が約4m、長さ約5mほどの規模と想定できそうである。

また、この前庭部一帯からは、追葬時の副葬などの祭祀に関係する須恵器甕・脚付壺・甕や土師器高坏などが出土し、なかでも土師器高坏の量が目立った。これらの遺物の時期については、今後の整理を待ちたいが、概ね6世紀末以降の年代に比定される。

4トレンチは古墳の西側に設定したが、ここでも周溝の確認までにはいたらなかった。土師器や縄文土器の破片が少量出土した。

5トレンチは2・3トレンチと4トレンチの間に設定したが、周溝の確認までにはいたらなかった。遺物は土師器の破片が少量出土した。

6トレンチは古墳の北側に設定したが、範囲も狭く、周溝の確認までにはいたらなかった。遺物は縄文土器が出土した。

以上が、今回の調査の概略であるが、墓道の閉塞石や列石、前庭部が確認できた点は大きな成果で、1号墳の石室構造を知る上では貴重な資料である。また、前庭部での多くの遺物の出土は、1・2次調査における石室内での遺物の出土量が少なかったことを考えれば、1号墳の築造時期などを検討するには好材料といえる。

これらの結果は、今後の古墳の保存整備の参考資料に成り得るが、調査目的の1つとしていた周溝が確認できなかったことは、周溝そのものの有無も含めて課題として残った形となった。この点については、次年度に継続した確認調査のなかで解決できることを期待したい。

(土居)



遺跡位置図 (1/5,000)



古墳正面と2・3トレンチ



4トレンチ調査風景



2・3トレンチ発掘状況

古墳は、盆地東部の大原八幡宮南側の谷を挟んだ、南側の東西にのびる尾根突端部に立地している。周辺には、西側に丸尾神社古墳、丸尾古墳、南側には鳥羽塚古墳、後山古墳、会所宮古墳、装飾が施されている法恩寺山古墳群等が存在し、盆地東部の古墳が最も集中している地域にあたる。調査は、墳丘規模、周溝の有無を確認するため、墳丘西側の尾根突端部側に1トレンチ、ほぼ対角線上の東側に2トレンチを設定した。

1トレンチ

墳丘西側の東西方向に長さ約12.0m、幅約1.5mで設定したトレンチである。掘り下げの結果、トレンチ東側から2.4mの所で墳端と思われる地山を削り出した立ち上がり、上部に2層の墳丘盛土を検出した。この地山の立ち上がりのラインは、やや西側に張り出していることから、トレンチ南側に造り出しの存在が考えられる。また、墳丘側から約6.3m地点では、幅0.74mに亘って整地層、トレンチ西端から約1.0m東側で近世段階の掘り込みが確認された。整地層からは中世の土師皿が出土していることから、中世段階で削平及び整地されたことが窺える。

2トレンチ

墳丘東側の東西方向に長さ約12.0m、幅約1.0mで設定したトレンチである。調査の結果、墳丘側から約3.0mのところまで墳丘端部と思われる地山削り出しの落ち込みを検出した。この地山の落ち込みが墳丘端部であるかを確認するため、トレンチの北側に幅約1.7m、長さ約2.7mの拡張区を設定した。その結果、埴輪とともに人頭大の根石と拳大の葺き石が流れ込んだ状態で検出された。トレンチ東側では地山の立ち上がりが確認され、この落ち込みはトレンチ全体の観察から周溝ではなく、尾根と古墳を切断するための掘り切りであると考えられる。以上のことから、この地山の落ち込みは墳丘端部とみて差し支えないだろう。さらに落ち込みから墳丘側では、墳丘の盛土がわずかに確認され、拳大の葺き石や遺物が集中して出土した。本来、墳丘端部の落ち込みまで盛土があったものと思われるが、後世に削平されたのか現況は平坦になっている。

遺物については、多数の埴輪が出土した。しかし組成を見ると、2トレンチでは円筒埴輪が主なのに対し、1トレンチでは遺物量こそ少ないが、家形埴輪と思われる底部片、大刀形埴輪のマガリガネの部分などの形象埴輪も出土している。時期は古墳時代中期に取まると考えられるが、今後整理していく過程で詳細な検討をする必要がある。

今回の調査で、それぞれのトレンチから墳丘端部を確認した結果、径約38.0mの大型円墳であることが判明した。しかし、1トレンチ南側の造り出しの可能性、墳丘北側の端部、墳丘盛土状況等の把握はこれからの調査の課題である。

(下村智・玉川剛司・末國琢也・越知睦和)



遺跡位置図 (1/5,000)



古墳全景



1トレンチ完掘状況



2トレンチ完掘状況

町ノ坪遺跡は日田市北東部の大字求来里に所在し、有田川の支流である求来里川上流域沿いの狭い谷の河岸段丘上に立地する。

調査は県営園場整備事業に伴い3ヶ所の地区を対象に行い、それぞれをA～C区と呼び、平成15年度にA・C区の調査を行い、本年度はB区の調査を実施した。

調査区の北側山裾は窪地状に下がっており、南側に遺構の密集が多く見られたことから、調査対象を南側に絞り、北側に関しては掘削が及ばないことからトレンチ調査を実施した。

検出された遺構は大きく2時期に分かれる。古墳時代では竪穴住居跡25軒以上、溝1条、土坑・柱穴多数で、古代～中世では溝跡1条、建物2棟、土坑・柱穴、北側のトレンチから水田層が検出された。各時期の遺構の概要は以下に述べるとおりである。

古墳時代の遺構は調査区中央に多く見られ、多数の竪穴住居跡が濃しく密集・重複して作られており、この竪穴住居群よりやや東側に南北方向の溝跡が検出された。竪穴住居跡の構造は2種類に分かれ、重複関係の最も下より地床炉を持つ竪穴住居跡1軒が確認され、これ以外の竪穴住居跡はカマドを持っていた。

各遺構より多数の遺物の出土が見られた。現在整理の途中ではあるが、各遺構の時期は、地床炉を持つ竪穴住居跡が土師器群の特徴より概ね5世紀前半～中頃と最も古く、カマドを持つ竪穴住居跡のうち4軒ほどの住居跡が土師器群の特徴や朝倉古窯跡産と見られる須恵器などから5世紀中頃～後半、その他の竪穴住居跡群及び溝跡が須恵器の特徴などから6世紀前半から中頃に比定出来そうである。

古代～中世の遺構は調査区の北東側にかたまり、検出された遺構数も少なく、遺物も土師器片が少量出土したのみである。調査区北側の窪地からは中世期以降の水田層が確認され、また古墳時代以降調査区中央部には古代～中世の遺構が見られないことから、一帯に水田開発が及んだ可能性も想定される。

以上、調査の概略を述べた。今回の調査結果は、隣接するA・C区の調査結果とあわせ、この一帯に古墳時代中頃以降大きな集落跡が形成されたことを示している。しかも、日田市内では調査例の少ないカマド導入時期の住居構造の変化や集落変遷が、切り合い関係や出土遺物などから検証することが出来るとともに、今回の調査区やC区、金田遺跡などで確認された須恵器資料などにより、須恵器導入過程を検討する貴重な資料を得ることが出来た。

今回の調査区では古墳時代を中心とした集落が発見されたが、周辺のA、C区や金田遺跡、小西遺跡・求来里平島遺跡などからは弥生時代～中世・近世の集落などが発見されている。整理作業の進展や県営園場整備に伴う周辺遺跡の調査が実施されるなかで、求来里川流域での時代毎の土地利用状況や開発過程などが明らかにされてゆくことが今後期待される。

(渡邊)



遺跡位置図 (1/5,000)



調査区全景 (真上から)



古墳時代後期の竪穴住居跡



土器出土状況

金田遺跡は盆地東部の求来里川左岸の台地斜面に位置する。求来里川を挟んで両側に狭い沖積地が広がり、遺跡南西側には台地斜面が迫る。遺跡周辺では弥生時代から近世までの集落遺跡である町ノ坪遺跡や古墳時代中期の初現期のカマドを持つ集落が調査された求来里平島遺跡などがある。

調査では弥生時代中期から古墳時代の住居が約40軒確認された。

弥生時代の住居では、大型の円形住居2軒が確認され、いずれも数回の建て替えがあったことが判明した。また方形住居は15軒ほど確認されたが、これらの住居は円形住居を切っているものもあった。こうした状況と出土遺物から、円形住居が中期末、方形住居が後期のものであることが確認された。さらに弥生時代終末期から古墳時代初頭の小型器台が出土した住居も確認されている。

さらに古墳時代中期の住居はカマドを造りつけたものが数軒確認された。この時期のカマドをもった住居からは、朝鮮半島産と思われる須恵器高杯が出土しており、カマド導入期の集落として注目される。

また数軒ではあるが、古代の竪穴住居も確認されている。

この他、近世以降の溝が数条確認され、遺跡周辺の水田化に伴い、水路として利用されていたと考えられる。

以上、金田遺跡では弥生時代中期から古墳時代中期まで集落が連続と続くことが確認された。弥生時代の住居では円形から方形への形態変遷を追うことができた。また、古墳時代、特に中期の住居が確認されたことは、朝鮮半島産と国産の須恵器の導入過程やカマド導入期の集落の一端を解明する上で重要な資料を提供したといえる。

さらに南側に台地斜面という立地条件は決して良好とは言えず、なぜこの場所に集落が形成され続けたのか、同時期における求来里川流域全体における集落立地との関係の中でその性格を検討していかなければならないだろう。

(若杉)



遺跡位置図 (1/5,000)



遺跡全景 (北西から)



12号竪穴住居跡カマド完掘状況 (南東から)



35号竪穴住居跡完掘状況 (北東から)



12号竪穴住居跡須恵器高杯出土状況

両遺跡とも盆地東部の求来里川右岸に位置する。小西遺跡は求来里川を挟んで、金田遺跡のほぼ真北の台地裾部に位置する。一方、町ノ坪遺跡D区は沖積地に位置し、調査区の北東側に位置する同遺跡A・B・C区は、平成15・16年度に調査され、弥生時代から近世にいたる集落が確認された。また、町ノ坪遺跡D区の南約50mの位置には縄文時代後期の住居や古墳時代の集落が確認された求来里平島遺跡がある。

小西遺跡の調査では、弥生時代中期から後期の竪穴住居跡15軒以上、掘立柱建物1棟、土坑20基以上が確認された。竪穴住居跡の時期は古いもので弥生時代中期末の円形住居、最も新しいものでタタキ成形による長胴甕の発見から後期後半から終末と考えられる。また竪穴住居跡には近接して2間×2間の総柱の掘立柱建物が存在しており、該期の集落に伴う可能性が考えられる。

また、対岸の金田遺跡で確認された古墳時代中期の住居が存在することが想定されたが、発見には至らず、当該期の遺物の出土もなかった。

小西遺跡を含めた求来里川流域では少なくとも弥生時代中期以降、近世に至るまで継続的に集落が営まれていた様子が窺える。しかし、その集落の立地条件は台地斜面や裾部、沖積地と様々で、さらに、本遺跡において古墳時代の集落が確認されなかったように、それぞれの遺跡で集落が存在しない空白期があり、今後の調査で時期による集落変遷の過程が明らかになるとと思われる。

町ノ坪遺跡D区は今年度は表土剥ぎを行ったのみで、本格的な調査は次年度継続になるが、市道を挟んで約10mで北東側に隣接するB区では6世紀前半を中心として、5世紀前半から6世紀中頃にかけた集落が確認されており、本調査区でもその広がりが予想される。(若杉)



遺跡位置図 (1/8,000)



遺跡全景 (北から)



14号竪穴住居跡完掘状況



1号掘立柱建物完掘状況



14号竪穴住居跡遺物出土状況

遺跡は広域農道と市道の交差点付近を中心に広がり、広域農道建設に伴う調査では縄文時代後期の竪穴住居や古墳時代中期のカマド初現期の竪穴住居等が検出されている。今回の調査は昨年度からの継続で、広域農道の南を1区、北を2区とした。

1区では竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡3棟、竪穴状遺構1基、溝6条、土坑・ピット多数が検出された。竪穴住居跡は重複せず、住居間を区切るように溝が配置されている。遺構・遺物の残存状況は良好で、2号竪穴住居跡では多くの床面直上の遺物が出土するとともに、カマドが住居南壁から北壁に作り替えられた様子が明らかとなった。5・7号竪穴住居跡でもカマドの袖石や天井石などがよく残存していた。出土遺物からこれらは6世紀後半ごろの集落と考えられる。1区で特徴的なのは、求来里地区の他の遺跡では竪穴住居跡が重複し、同じ場所に継続して居住した様子が顕著であるのに対し、今回の調査区ではそれが見られないことである。今後周辺の調査が進むに従い、集落内の遺構配置の様相が明らかになるとと思われる。

2区は道路分を隔てるのみにも拘らず1区とは全く異なり、数枚の水田層の下には黒褐色～灰褐色の細かな粘質土が、幾層もの砂層を挟みながら2～3mにわたり堆積していた。湧水の影響でこの堆積層は水分を豊富に含み、草木や種子の遺存体が非常に多く残っていた。それとともに岩盤直上付近では古墳時代後期の須恵器片が、また上層では土師器小皿や青磁片など古代末～中世の遺物、曲物や杭などの木製品も数点出土した。土壌の自然化学分析と総合して環境の推移を推定すると、2区は古墳時代には求来里川の影響を受ける澁みのような湿地で、その後幾度も洪水など流水の作用を受けながら堆積が進み、中世ごろには湿地化されたか、または近辺の水田耕作土が流入した可能性が高いようで、現在のような乾田となったのは近世ごろと考えられる。(行時)



遺跡位置図 (1/5,000)



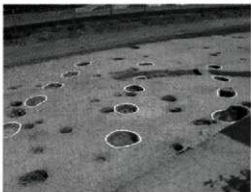
調査区全景 (北から)



7号住居跡カマド検出状況



2区掘下げ状況



1号掘立柱建物跡

7. 入龍遺跡

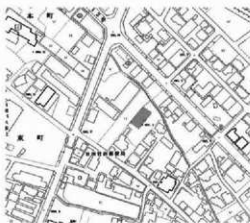
—若宮公民館建設に伴う発掘調査—

遺跡は盆地南東部、筑後川に程近い標高約85mの沖積地上に位置する。周辺における過去数回の試掘調査ではいずれも氾濫原が検出されるのみであった。

土質が砂地であるため住居など遺構の存在ははっきりしなかったが、調査では弥生時代から古墳時代前期の遺物包含層と、焼土痕やピットが検出された。またミニチュア土器数点や倒置された甕など、祭祀行為を想像させる遺物も出土している。

今回の調査により、筑後川に近く不安定な立地で生活の場として適当でないと考えられてきたこのような大河川沿いの沖積地でも、わずかに高い場所では生活の痕跡が残されていることが確認できた。土壌分析の結果と総合すると、大小河川の氾濫を幾度もなく受け、上流に存在したであろう集落などの遺物を包蔵しながら堆積し微高地へと変化するなかで、古墳時代前期には一帯が水田耕作可能な乾燥地となり、生活や祭祀が行われたが、砂地であるため耕作の基盤は脆弱で、生活地としては発展できず短期間のうちに終焉を迎えたと推定される。

(行時)



遺跡位置図 (1/5,000)



調査区全景 (北から)

8. 中尾原遺跡

—水道施設建設に伴う発掘調査—

遺跡は盆地東部、標高約160mの池辺原と呼ばれる台地上に位置し、盆地内から遺跡の多い有田・求来里地区へ通じる分岐点にあたる。

調査では縄文時代の集石1基と土坑1基、近世以降の溝1条と土坑2基が検出され、調査区の一部で縄文時代の遺物包含層も確認された。

集石は構成する礫のほとんどが赤化しており集石炉と考えられるが、礫の集中度は低い。また周辺に赤化礫が散在していることから、他にも集石が存在していたことがうかがえる。

近世以降の溝は断面皿状を呈して浅く、台地端まで伸びるものの建物等を伴わないことから、畑地の境界溝と考えられる。溝付近にある土坑2基も農作業に関連するものであろう。

今回の調査区では畑地化により大規模に土地改良された結果辛うじて残った縄文時代と近世以降のわずかな遺構しか検出されなかったが、事前調査では付近の畑地で弥生土器や土師器などが採集されていることを考えると、この台地上にはこれらの時期を含む遺跡が広がっていると推定される。

(行時)



遺跡位置図 (1/5,000)



調査区全景 (東から)

9. 大波羅遺跡3次

—マンション建設に伴う発掘調査—

遺跡は日田盆地東部の標高約89mの沖積地に位置しており、今回の3次調査地点は市役所のすぐ東側にあたる。調査では掘立柱建物1棟、土坑1基、溝1条、ピット多数が確認できた。

それぞれの遺構の年代については、年代を特定できる遺物の出土量は少なかったが、遺構の切り合い関係などから、掘立柱建物が古代から中世期、土坑が中世期、溝が弥生時代から古代に比定され、ここには主に古代～中世期にかけての集落が存在していたものと推定される。

ここ数年、この遺跡周辺では数回の発掘調査が行なわれ、なかでも3次調査地点の東側にあたる1次調査地点では古代の墨書土器や瓦などの遺物を含む遺構が発見されるなど、官衙や寺院に関する施設の存在が想定されている。遺跡周辺は古代日田の豪族日下部氏が本拠としていた鞍馬郷に属することから、当時の様子を考える上でも好資料を得ることができた。

なお、詳細については、既刊の『大波羅遺跡3次』発掘調査報告書を参照されたい。
(土居)



遺跡位置図 (1/5,000)



調査区全景

10. 慈眼山瀬戸口遺跡

—宅地造成に伴う発掘調査—

遺跡は日田盆地内のやや東側の標高約86mの沖積地に位置しており、調査区のすぐ北側には大蔵氏の居城跡である慈眼山がみられる。

調査区からは井戸2基、溝6条、土壌、柱穴多数、整地層が確認された。特筆されるのは建物に使用された柱木や石組の井戸跡、区画と排水に使用されたと考えられる溝跡などが見られるなど多様な構成を持つ集落の様相が明らかとなったことである。さらに、遺構からは多数の土器類とともに、古銭や瓦などが発見されこの遺跡が一般の集落とは異なる可能性が考えられる。また、この集落の廃絶後には、数度に渡り整地が行われており、この場所が集落域として強く意識されていたことを物語っており、整地層には大量の焼土とともに多数の遺物が含まれていた。この集落と整地の時期は出土した土器器類から、15世紀代と考えられる。

さて、この一帯は宅地造成に伴う開発が増加している地域であり、これまでの調査結果から慈眼山周辺には中世期の集落跡が広がっていたことが明らかとなっている。今回の調査で確認された遺構群は15世紀代のもので、大蔵氏の断絶時期前後と大きくかわる貴重な資料を得ることができた。やや離れた1次の調査では同様の時期の集落施設などが確認されており、今後の周辺調査の進展により当時の社会の様子が明らかになってゆくことが期待される。(渡邊)



遺跡位置図 (1/5,000)



調査区近景

3) 試掘調査・立会調査・照会の概要

表3 試掘・立会調査一覧表

面積単位: m²

番号	遺跡名	種別	事業目的	調査場所	発見面積	調査面積	調査回数	試掘	遺跡の時代	出土遺物	出土遺物	処理	詳細地図番号
12	真形遺跡	公共	道路拡幅	赤木堂字白藤子112番地	179	7	0423	試掘	-	なし	銅器・銅製研	工事実施	池田34
13	日田赤里平ノ元地区	民間	分譲住宅建設	渡里字平ノ元101番地他	2,883	30	0428	試掘	-	なし	なし	工事実施	上手48
14	大肥赤里堂道地区	民間	宅地造成	大肥赤里堂道2306	370	11	0430	試掘	-	なし	なし	工事実施	細路15-II
15	日田赤里上井ノ内	公共	小学校建設	北友田1丁目1133-2	822	20	0430	試掘	弥生時代	粘土・土器片	なし	工事実施	小迫44
16	大波瀬遺跡	公共	道路改良	田島2丁目80-4番地他	200	24	0518	試掘	-	なし	なし	工事実施	田島62
17	大宮遺跡	民間	分譲住宅建設	高瀬字千鶴1343番地1	1,642	11	0524	試掘	-	なし	なし	工事実施	高瀬17
18	長者原遺跡隣接地	民間	宅地造成	石井字瀬戸455番地4	306	12	0524	試掘	-	なし	なし	工事実施	石井16
19	日隈城隣接地	公共	公園整備	壬字手上り0162-1他	11,000	10	0524	試掘	-	なし	なし	工事実施	玉川62
20	大原遺跡	公共	公民館建設	竹田字入道824-1	1,641	10	0604	試掘	弥生・古墳	包含物	粘土・土器片	発掘調査	竹田31
21	高瀬赤里カヤノノ地区	公共	農村公園整備	高瀬カヤノノ778番地他	4,138	20	0604	試掘	弥生・古墳	土灰・土器	粘土・土器片	発掘調査	竹田29
22	日田赤里大迫町地区	民間	土地売却	渡里字大迫町53番地5番	13,435	50	0629	試掘	-	なし	なし	工事実施	上手49
23	懸懸山瀬戸口遺跡	民間	分譲住宅建設	上城町435-1	2,727	30	0629	試掘	中世	土器片	土器片	発掘調査	上手51
24	谷ノ久保遺跡	公共	農業施設建設	三和字善田1885番地他	15,000	135	0721	試掘	-	なし	調査ポイント	工事実施	朝日20
25	日田赤里上手地区	民間	医療施設建設	西有田字上手10-1他	2,500	23	0803	試掘	-	なし	なし	工事実施	上手50
26	日田赤里若ノ下地区	民間	納骨堂建設	渡里字若ノ下1259-1	71	9	0803	試掘	弥生・中世	土器・土灰	土器片	発掘調査	小迫49
27	宮ノ下遺跡	民間	資材置場建設	有田字宮ノ下415-1	2,243	38	0820	試掘	-	なし	なし	工事実施	有田27
28	小迫江原遺跡隣接地	民間	宅地造成	小迫字平野1119-2	192	15	088-00	試掘	古墳・古代	包含物	土器片・土器片	発掘調査	小迫50
29	新ノ原遺跡	民間	農産倉庫建設	東有田島越291-3	2,900	120	1012	試掘	-	なし	なし	工事実施	東有田2
30	日田赤里千幹地区	公共	公民館建設	渡里町1155の1番地	2,760	60	1018	試掘	古墳・中世	柱・土器	土器片	発掘調査	田島70
31	三和町遺跡	民間	アパート建設	三和字長道742番1番	2,571	60	1101	試掘	-	なし	なし	工事実施	三和40
32	新原前遺跡隣接地	公共	農業施設整備	野田70,000	1,067	10	1101	試掘	-	なし	なし	工事実施	三和41
33	日田赤里千幹地区	民間	宅地造成	渡里町1113-1、113-8	256	8	1209	試掘	-	なし	なし	工事実施	田島57
34	日田赤里上深地区	民間	マンション建設	中央1丁目404、408番地	1,501	15	1221	試掘	-	なし	なし	工事実施	田島58
35	日田赤里隣接地	民間	宅地造成	十二町字馬場109-1	283	10	0124	試掘	-	なし	なし	工事実施	玉川65
36	日田赤里一田地区	民間	分譲住宅建設	日田赤里大字南500-1他	3,030	45	0214	試掘	弥生時代	土灰・土器	弥生土器	発掘調査	玉川66
37	日田赤里熊野地区	民間	分譲住宅建設	渡里201ほか	1,528.87	30	0222	試掘	-	なし	なし	工事実施	上手60
38	日田赤里隣接地	民間	事務所建設	十二町字馬場167番地1	930	22.5	0302	立会	-	なし	なし	工事実施	玉川67
39	新原前遺跡隣接地	公共	農業施設整備	小野下小竹	30,000	34	0305	試掘	-	なし	なし	工事実施	-
40	大波瀬遺跡	公共	道路改良	小野下	163	5	0318	試掘	-	なし	青磁1点	工事実施	田島71
41	朝日ヶ丘遺跡	公共	市営住宅建設	小迫字中郷の1439番地2	5,571	52.5	0320	試掘	-	なし	なし	工事実施	小迫54

表4 書類審査のみの照会一覧表

面積単位: m²

受付月日	事業主体	事業目的	開発場所	開発面積	詳細地図番号	備考
0402	民間	資材置場造成	小迫字大茶園24ほか	3,503	小迫43	
0427	民間	駐車場用地造成	石井字宮田285-27	29	石井15	
0511	民間	資材置場建設	渡里字下瀬井寺94番地2ほか	1,752	上手47	
0525	民間	資材置場造成	竹田字丸塚358-4、359-1	1,491	竹田30	
0528	民間	農地造成工事	鶴河内字釜上1123-1、1124-1	2,164	5-1	
0604	民間	老人福祉施設建設	日高字上井手1471-1	1,921	古金17	
0618	民間	公共住宅	田島1丁目553-3	852	田島63	
0706	民間	宅地造成	田島1丁目553-6	304	田島64	
0722	民間	墓地造成	渡里字後道410-1ほか	-	上手61	前年度に照会文書提出。照会可にて即造成のため照会実施
0812	民間	分譲住宅造成	壬字手楽の外64番地の2ほか	1,163	上野18	
0820	民間	宅地造成	北豆田字ケムノ子1733-22番地ほか	374	田島65	
0909	民間	分譲住宅造成	友田字1179ほか	1,400	玉川64	
0917	民間	資材置場造成	高瀬22番地	6,421	車川5	
0929	民間	店舗建設	元町139	167	田島66	
1008	民間	埋め立て施設建設	有田字燕正1377	1,115	有田28	
1021	民間	携帯電話基地局建設	友田字下長瀬686-1	200	北友田26	
1117	民間	自動車修理工場建設	日高字東寺413-1	741	古金18	
1124	民間	資材置場造成	北豆田字戸塚平837-1ほか	1,657	上手58	
1222	民間	公園トイレ、看板設置	川下699番地11	154	森189-1	
1222	公共	大型店舗建設	高瀬字上ノ迫2122-1	70,000	上野19	要予備調査。次年度以降協議
0114	民間	マンション建設	竹田新町1119-1、1119-2	1,136	竹田32	
0118	民間	宅地造成	小迫278-3	252	小迫53	
0118	民間	宅地造成	渡里1001-54	221	上手59	
0210	民間	分譲住宅造成	日高字取所816番地1	1,818	竹田33	要予備調査。次年度以降協議
0222	民間	個人住宅建設	高瀬字西ノソノ494番地ほか	-	竹田34	要予備調査。次年度以降協議
0303	民間	分譲住宅造成	日高字中郷1601-1	1,609	古金19	要予備調査。次年度以降協議
0311	民間	資材置場造成	本町618-1、619	1,943	竹田20	要予備調査。次年度以降協議
0323	民間	埋め立て施設建設	有田字堀1863番地2	1,269	有田32	要予備調査。次年度以降協議

II 平成16年度の埋蔵文化財普及・啓発事業

1) 埋蔵文化財センター運営事業

平成14年度の埋蔵文化財センターの開館を契機に、平成15年度より5年間を1つの区切りに、埋蔵文化財センター運営事業を行っており、今年度はその3年目として発掘調査速報展を開催したほか、前年度に引き続いて、市民を対象に考古学講座などの普及活動にも力を入れた。

1. 平成15年度埋蔵文化財発掘調査速報展（5月17日～6月25日）

平成15年度に市内で行った発掘調査の成果を市民にいち早く公開するため遺物・写真パネルの展示を行い、市内を中心に470人の来館者があった。

埋蔵文化財センター見学者数

月	総見学者数	団体	個人	特別展
4月	18	0	18	
5月	236	90	146	速報展 (5/17～6/25) 470人
6月	238	202	36	
7月	44	37	7	
8月	16	0	16	
9月	24	20	4	
10月	42	31	11	
11月	7	0	7	
12月	2	0	2	
1月	12	12	0	
2月	48	48	0	
3月	13	8	5	
合計	700	448	252	

上女東証団休：市立桂井小学校（48名：センター見学）、小野小学校（15名：センター見学）、竜明小学校（10名：センター見学）、市立小野小学校（46名：センター見学）、市立城守小学校（31名：センター見学）、市立新田小学校（17名：センター見学）、三浦町土師研究会（19名：センター見学）、西野田公園（1名：センター見学）、関野老人クラブ（48名：センター見学）、公民館委員会（12名：センター見学）、高津公民館（1名：センター見学）、大田中学校（職員見学）（5名：センター見学）



常設展示風景



速報展見学風景

2. 考古学講座「タイムトリップひたvol.2」

市民を対象に、「考古学」や「埋蔵文化財」を通して「地域の歴史」に対する関心を深めてもらうために市内外から講師を招待し、全8回の講座を実施した。

月日	回数	内 容	講 師	受講人数
0623	第1講	土偶に込められた祈り	大分県教育委員会 職員 宮内克巳氏	28
0707	第2講	縄文土器の世界	大分県教育委員会 職員 坂本嘉弘氏	33
0721	第3講	平成15年度発掘調査報告① 古屋敷遺跡	渡邊隆行	24
		平成15年度発掘調査報告② 高野遺跡	若杉竜太	
0804	第4講	海を渡った石器	別府大学非常勤講師 清水宗昭	27
0825	第5講	考古学の魅力①土器づくりの楽しみ方	中川洋一氏	24
		考古学の魅力②遺跡での土器・石器の採集の楽しみ方	原田勝宏氏	
0908	第6講	平成15年度発掘調査報告③ 上野第2遺跡	行時桂子	27
		平成15年度発掘調査報告④ 穴観音古墳	土居和章	
0922	第7講	弥生人が使った木製道具	福岡市教育委員会 職員 山口謙治氏	22
1006	第8講	古代人曾は語る	九州大学研究員 舟橋京子氏	24

※申込み人数 39人



考古学講座講義風景

3. 考古体験・体験教室・出張展示

古代人の知恵や技術に触れ、埋蔵文化財への関心を楽しみながら深めてもらうための機会を提供する目的から、「火燻し体験・発掘体験・整理作業体験・展示見学・考古学のはなし」などの体験メニューを各団体からの申し込みにより実施すると共に、市内のふるさと祭りに併せてその地区の調査成果の出張展示を実施した。



出張展示（夜明地区）

月日	協力・協賛先	内 容	場 所	参加人数
0527	桂林小学校	展示見学、火燻し体験	埋蔵文化財センター	48
0528	日限小学校	展示見学、発掘現場見学	町ノ坪遺跡B区	46
0615	小野小学校	展示見学、発掘・火燻し体験	町ノ坪遺跡B区	15
0615	成宜小学校	展示見学	埋蔵文化財センター	91
0617	夜明小学校	展示見学、火燻し体験	埋蔵文化財センター	10
0617	有田小学校	展示見学、発掘・火燻し体験	金田遺跡	57
0619	西有田公民館わんぱく教室	展示見学、発掘体験	金田遺跡	11
1121	夜明地区ふるさと祭り	出張展示	夜明小学校	192
1225	西有田公民館わんぱく教室	火燻し体験	西有田公民館	15
合 計				485



火燻し体験（桂林小学校）



発掘現場見学（日限小学校）



発掘体験（有田小学校）

2) 埋蔵文化財の普及・啓発活動

遺跡の調査成果を広く一般市民に公開するため、現地説明会や講師の派遣、調査報告書の作成を実施した。

1. 求来里現地説明会

町ノ坪遺跡および金田遺跡の発掘調査の成果を広く一般に公開する目的で、平成16年7月25日に現地説明会を開催した。厳しい暑さの中約50名の参加があった。当日は現地で担当者が解説を行い、あわせて出土遺物の展示と体験発掘を行った。



現地説明会風景

2. 講師派遣・講師依頼

講師の依頼件数は考古学講座に伴う7件、派遣は2件であった。

月日	区分	派遣・依頼先	内 容	講 師
0623	依頼	大分県立歴史博物館	考古学講座第1講「土器に込められた祈り」	大分県教育委員会職員 宮内克巳氏
0707	依頼	大分県教育庁埋蔵文化財センター	考古学講座第2講「縄文土器の世界」	大分県教育委員会職員 坂本嘉弘氏
0717	派遣	大分県考古学会	大肥条里大肥地区出土の弥生時代の木器について	渡邊隆行
0804	依頼	別府大学	考古学講座第4講「海を渡った石器」	別府大学非常勤講師 清水宗昭氏
0825	依頼	日田考古学同好会	考古学講座第5講「考古学の魅力①土器作りの楽しみ方」	中川洋一氏
0825	依頼	日田考古学同好会	考古学講座第5講「考古学の魅力②土器作りの楽しみ方」	原田勝宏氏
0922	依頼	福岡市教育委員会	考古学講座第7講「弥生人が作った木製道具」	福岡市教育委員会職員 山口謙治氏
1006	依頼	九州大学	考古学講座第8講「古代人骨は語る」	九州大学研究員 舟橋京子氏
0226	派遣	日田考古学同好会	平成16年度の発掘調査報告	土居和章・行時杜子・若杉竜太

3. 刊行物

埋蔵文化財に関わる刊行物の今年度の発行件数は年報1件、調査報告書8件であった。

書名	巻次	体裁	総頁	内 容
1 平成15年度(2003年度)日田市埋蔵文化財年報	—	A4	17	平成15年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財調査事業、埋蔵文化財保護事業、埋蔵文化財普及および啓発事業などを所収。
2 葛原遺跡Ⅱ	53	A4	33	ニッカウイスキー工場建設に伴う埋蔵文化財調査の成果。古墳時代の竪穴住居跡・建物跡を所収。
3 大波羅遺跡3次	54	A4	9	マンション建設に伴う埋蔵文化財調査の成果。古代～中世の竪立建物跡などを所収。
4 穴蔵音古墳Ⅱ	55	A4	42	国指定史跡の同古墳の範囲確認に伴う埋蔵文化財調査の成果。周溝の形態が判明。須恵器・土師器などを所収。
5 古屋敷遺跡	56	A4	82	跡場整備に伴う埋蔵文化財調査の成果。縄文時代の包含層、中世の建物を所収。
6 吹上Ⅲ	57	A4	41	範囲内容確認調査に伴う7、8次の埋蔵文化財調査の成果。弥生時代の竪穴住居、土坑を所収。
7 有田塚ヶ原遺跡・クビリ遺跡	58	A4	54	ウッドコンビナート建設に伴う埋蔵文化財調査の成果。縄文時代の落と穴状遺構、古代の包含層を所収。
8 中尾原遺跡	59	A4	10	水道施設建設に伴う埋蔵文化財調査の成果。縄文時代の集石などを所収。
9 朝日天神山古墳群	60	A4	224	県指定史跡朝日天神山古墳の内容確認に伴う5次にわたる埋蔵文化財調査の成果。古墳の規模が判明。須恵器などを所収。

3) 文化財の指定

平成13・15年度の調査成果に基づき穴蔵音古墳の周溝部分を含めた範囲の追加指定が行われた。

穴蔵音古墳 (国指定史跡追加指定—平成17年3月2日告示)

古墳は大字内河野字倉園の原台地と呼ばれる台地の北部に位置する装飾古墳である。主体部は複室の横穴式石室で玄室奥壁・右側壁、前室側壁に赤・緑色を使って、幾何学文、円文、人物、鳥、舟が描かれている。こうした装飾は古く知られ、昭和8年に残存する墳丘部分(直径約12m)が国の史跡に指定されている。その後、墳丘保護のための覆い屋設置や日下八光先生による壁画の模写など古墳の保護・保存措置が図られてきたが、古墳周辺では近年、宅地造成等の開発が多く、古墳近接地まで開発の波が押し寄せる恐れが出てきた。こうしたことから、平成13、15年度に周溝の有無、古墳の規模を確認する目的で調査を行った。その結果、幅1.5m前後の周溝が確認され、墳丘規模が直径約23mになることが判明した。陸橋付近の周溝内からは多くの遺物が出土し、これらから古墳の築造時期は6世紀末～7世紀初頭と推定され、前方後円墳築造停止後における日田盆地の首長墓の1つとみられる重要な古墳である。



穴蔵音古墳全景

なお、追加指定面積は3678.95㎡で、既指定面積104㎡を加えて、合計3782.95㎡となった。既指定地は以下のとおりである。大字内河野字倉園5番地の一部、8番地、10番地の一部、およびこれに含まれる里道(既指定地は同9番地)

4) その他

今年度、埋蔵文化財関連資料の貸出は8件、借用1件、寄贈1件であった。

1. 資料借用・貸出

受付月日	区分	資料名	借用・貸出先	目的
0419	貸出	後遺遺跡、三軒敷遺跡、小波羅遺跡出土土器、石器	個人	講演資料
0427	貸出	後遺遺跡出土土器、平野遺跡埋蔵三枝矢頭部	個人	講演資料
0512	貸出	小波羅遺跡2号居館写真(カラーネガ)	(株)小学館	書籍掲載
0512	借用	広瀬忠憲使用機	広瀬資料館	展示
0524	貸出	平島横穴墓群出土須恵器・土師器	日田高校	講演資料
0630	貸出	朝日天神山古墳群出土大型平庭壺写真(白シ)	(株)山川出版社	書籍掲載
0818	貸出	小波羅遺跡空堀写真(白シ)	松山市考古館	展示および図録掲載
0901	貸出	吹上遺跡出土土師器・鉄剣・貝輪(白シ)	(株)小学館	書籍掲載
0922	貸出	三枝矢頭部はか野石器資料	明治大学	講演資料
1227	貸出	吹上遺跡出土土師器・貝輪写真(白シ)	日本放送協会協会	書籍掲載
0115	貸出	小波羅遺跡空中写真	大分県教育庁埋蔵文化財センター	番組制作事前検討資料

2. 資料寄託・寄贈

受付月日	区分	資料名	数量	寄託・寄贈者	備 考
1222	寄贈	芳ランドヤ古墳周溝様式集装飾石片	1	個人	

平成16年度 (2004度)

日田市埋蔵文化財年報

発行日 平成17年6月17日
編集 日田市埋蔵文化財センター
日田市教育委員会文化財保護課
〒877-0077
大分県日田市南友田町516-1
TEL 0973-24-7171
発行 日田市教育委員会
〒877-8601
大分県日田市田島2-6-1
TEL 0973-23-3111
印刷 カワハラ企画
大分県日田市水日町315-4